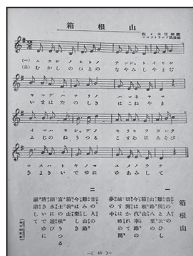


かながわけんしょうがくしょうか

#13 神奈川県小學唱歌 尋常5年用

編纂：神奈川県唱歌研究会（かながわけんしょうかけんきゅうかい）

刊行：昭和5年（1930）



※左より、表紙、p. 43「箱根山」、p. 65「源頼朝」



♪ 解題

■ 内容

本書の表見返しには「口形圖」として、母音（ア、イ、ウ、エ、オ）を発音する際の口型が5枚の写真によって示されている。収録曲数は58曲。この中には「箱根山」（佐佐木信綱作詞、スコットランド民謡）や「源頼朝」（青柳善吾作曲）が含まれている。

小林いつ子の論考によると、「徳目唱歌の代りに徳性涵養により効果ある方法として（中略）歴史あるいは偉人伝などに取材するようになっている。」との指摘がある。本書に所収の「箱根山」や「源頼朝」のような、神奈川県に縁のある地名や人物を題材とした唱歌を通し、児童が親しみやすく、かつ、徳性の涵養を図る目的も感じられる。

このほか、「唱歌の心得」として、歌う時の姿勢、歌い方、聴き方、呼吸法、口の開け方等の解説と、「長音階」「短音階」の説明が記載されている。

国立国会図書館サーチによると、公共図書館での所蔵は当館のほか、本書および同4年用、6年用を、横浜市立図書館に所蔵している。

■ 作者

神奈川県唱歌研究會の著作であるが、委細は不明である。

田甫桂三の論考によると、明治26年（1893）以降、全国各地で唱歌講習會が開かれたとある。講習會は、「地域の研究会とは別に学校レベルの研究会もあった。」と記載されているが、神奈川県唱歌研究會との関連は不詳である。

■ 神奈川県内における唱歌教育

『神奈川県史 各論編3 文化』によると、明治期における神奈川県の唱歌教育について、「具体的に唱歌教育実施の機運が見え出したのは、1884年以後のことである。」等としている。

平野正裕の論考では、大正期における横浜市内の事例を挙げ、童謡「チューリップ」、「うみ」の作曲者である井上武士が、「大正13（1924）年から昭和6（1931）年の約7年間、唱歌指導のため横浜市に在職」、「ほぼ毎日市内の36校を1校ずつまわって1～2時間、唱歌を指導した。横浜市が特別予算を組んだことで、教材集や参考書をそろえることができた。」等と指摘している。県内における唱歌教育の充実が図られるなか、本書が刊行されたことが伺える。

♪ 参考文献

- ・小林いつ子「日本における唱歌科の確立」（『教育学研究』28（4）日本教育学会 1961）[Z370.5/68]
- ・田甫桂三「唱歌教育の夜明け：明治20年代の唱歌教育」（『武蔵野音楽大学研究紀要』9号 武蔵野音楽大学 1975）[Z760.5/13]
- ・『神奈川県史 各論編3 文化』神奈川県民部県史編集室 1980 [213.7/10-2/3a] [K21/162/3a]
- ・平野正裕「井上武士と香川一郎：昭和初期・子どもの唱歌と遊戯」（『市史通信』24号 横浜市史資料室 2015）[ZC1082]